

12月4日(日) 第7回歴史講座

講師: 坪内健治氏

歌舞伎 18番 「勅進帳」

～加賀の国安宅の関～



歌舞伎「勅進帳」より

弁慶 (団十郎) 富樫 (猿之助)

「坪内氏系図」によると、坪内氏の始祖は、藤原鎌足に発し、平安時代、藤原利仁が越前・加賀・能登の受領となり、その後、子孫は富樫を称号した。

鎌倉時代、源頼朝と義経不仲の折、加賀の国「安宅の関」で義経を捕らえよとの兄頼朝の命が出され、当時「安宅の関」の番は、富樫左衛門であった。

「歌舞伎十八番『勅進帳』より、」

弟義経一行は、密かに奥州の藤原氏をたより旅の途上、「安宅の関」にかかる。

弁慶は(山伏)・義経は(荷物運びの強力)姿で現れ、「南都東大寺を再建する為、諸国を勧進している者で関を通りたい」と申す。富樫は「勅進帳を聞こつて」弁慶は、持ち合わせの巻物を広げ、即興で威風堂々と「勅進」を唱える。

更に富樫は「山伏」のいわれを問う。弁慶は、必死の形相で答える。

坪内氏の先祖は「勅進帳の富樫」!

中山道間の宿 新加納

まちづくり会かわら版

富樫は「疑いは晴れた」と通行を許可。しかし、五人の後から荷物運びの強力が、義経に似ている」と番卒が叫ぶ。

弁慶は、絶対絶命の窮地に陥るが、とつさの気転で「いつもお前のせいで義経一行と疑われる」と言っ、金剛杖で強力(義経)を散々打ち据える。

富樫は、義経であることを見抜いていたが、弁慶の義経の命を救いたいという忠義心に、生粋の鎌倉武士として心を打たれたのである。関を通過させる責任は、自ら覚悟し、「酒肴を振舞う。」

弁慶も返礼に「延年の舞」を披露する。その後富樫は頼朝の勘気を受け、加賀の国から義経の元へ流浪の旅に出た。

藤原利仁流にして、富樫介家直、十一代の後胤藤左衛門頼定は、加賀の国より尾張の国犬山に赴き、野武の城代坪内又五郎某が家号を継、坪内と称した。

十一月十四日(月)紅葉の秋 会員二十五人が参加し、「妻籠宿」と「桃介記念館」ほかを訪問。

中山道「妻籠宿」は、山深い木曽路で、交通の要衝として賑わう。

今も残る江戸時代の町並み、建物は二階が張り出し、うだつや格子戸に想わず足が止まる。又、本陣・脇本陣の囲炉や大黒柱、美しい庭など往時の生活が偲べれます。

昭和五十一年、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選ばれました。



「福沢桃介記念館」 桃介橋を築き、大正12年、木曾川に「読書発電所竣工」。

第15号  
平成29年  
3月1日  
発行  
新加納まちづく会  
会長 小島秀俊

ホームページ  
のお知らせ

[http://shinkan\\_o.main.jp](http://shinkan_o.main.jp)  
お楽しみください。

待望の2路線。3月、整備に着工します

各務原市都市建設部により、市道422号線 同429号線の整備着工に向けた工事説明会が開かれました。

市道那429号線

市道那422号線





# 浄土真宗大谷派(東本願寺) 遇光山 善休寺

本尊 阿彌陀如来

諸仏 親鸞聖人・蓮如上人

開山・開基 念願法師(浄土真宗改宗一世)

由緒

善休寺は、天台宗の流れを汲む寺院であり、光暁坊と称していた。

貞永元年(一一三三)鎌倉時代

親鸞聖人関東より御上洛の途次、葉栗郡門

間の床・木瀬(現在の岐南町三宅木瀬)の草

庵に滞在の頃、当時天台宗光暁坊の「念願和

尚」が当山への来駕を仰ぎ御化導を承け、以

後浄土真宗(東本願寺)に改宗した。

慶長時代(一五九六〜一六一五)に至り、光

暁坊より「善休寺」と改名し今日に至る。

尚、本光院は、宝永年中(一五七三〜九二)

華族の息女が住職となり、二条天皇の時、築

地御所の号を賜り「藏人御所」と称した。



## 縁日 (行事)

- \* 正修会 (一月一日)
- \* 報恩講 (十二月)
- \* 仏教婦人会 (春季四月・秋季十月)
- \* 永代経 (春季五月)
- \* お経教室 (夏季八月)
- \* 除夜の鐘 (大晦日) ほか



## 寺宝

織田信長が、清州から岐阜城に出た折、各務野を一覽。善休寺に御休泊賜りました。善休寺は、「宮家・武家・徳川家」からも尊宗と保護を受けました。大変由緒あるお寺です。

当山は、織田信長ゆかりの深い本光院(京都市上京区)に帰依深く筋堀(三本筋入り)を許されました。又、菊花紋入りの品を寄附賜り祈願所と定められる。そして、尾張徳川家の殿さまが各務野にて狩りの折、休泊所となる。以来信仰篤く「葵の紋」を許され、提灯箱も残っています。

## 寺宝

- 本光院蔵人役所書下。
- 本光院宮御祈願所木札。(菊花紋入り)
- 本光院蔵人役所御用木札。(三ツ葉葵紋入り)
- 菊花紋・葵紋入り提灯及び同収納箱。
- 蓮如聖人直筆六字名号一幅。



## 室町時代～戦国・江戸時代～「那加町史年表」

室町時代	戦国時代	江戸時代
文明七年 (一四七五)	天正二年 (一五七四)	慶長九年 (一六〇四)
明応八年 (一四九九)	天正十年 (一五八二)	慶長二年 (一六二二)
永祿四年 (一五六二)	天正十一年 (一五八三)	慶長五年 (一六〇〇)
永祿七年 (一五六四)	天正十三年 (一五八五)	慶長六年 (一六〇一)
永祿八年 (一五六五)	天正十四年 (一五八六)	慶長七年 (一六〇二)
永祿十年 (一五六七)		

室町時代 一三三八年〜一五七三 足利尊氏(義満)

文明七年 (一四七五) 薄田祐貞、手力雄神社(梵鐘と木狛犬を寄附)。

明応八年 (一四九九) 薄田祐貞、東陽英朝禪師を招き、少林寺建立。(寺伝は明応二年)新加納の戦い。信長帰陣。

永祿四年 (一五六二) 信長の美濃攻略(坪内勝定参戦) 大山城、鶴沼城落城。

永祿七年 (一五六四) 藤吉郎・川並衆、稲葉山城攻撃に備え坪内衆新加納に誓を築く。

永祿八年 (一五六五) 信長、坪内氏に鉄砲使用許可。

永祿十年 (一五六七) 信長、斎藤竜興攻め稲葉山城陥落。

戦国時代 一五七四〜一六〇二 信長(秀吉の統一)。

天正二年 (一五七四) 信長、神興他手力雄神社に寄附。本能寺の変。明智光秀、本能寺襲来。信長・濃姫・信忠ら討死。

天正十一年 (一五八三) 秀吉、岐阜城攻略織田信孝自害。朝鮮の陣出兵。(坪内氏参戦)

天正十三年 (一五八五) 木曾川大洪水発生!

天正十四年 (一五八六) 前渡・上・下中屋・無動寺・川島・円城寺の村々、甚大な被害。米野の戦い、岐阜城落城。関ヶ原の合戦。東軍家康勝利。坪内親子、鉄砲隊を率いて奮戦。坪内利定親子、新加納・前渡・三井・平島他知行支配する。中山道開通。

江戸時代 一六〇三〜一八六七年 徳川家康(慶喜)。

慶長九年 (一六〇四) 新加納に一里塚、並木松を植える。大阪冬・夏の陣 徳川家康勝利。

慶長二年 (一六二二) 坪内領の検地で長塚村の石高増。笠松陣屋始まる。

寛文二年 (一六六二) 木曾川堤防築、高木家へ普請願。

寛文十二年 (一六七二) 徒党・強訴の禁札を高札場掲示。

明和七年 (一七七〇) 徳山分家領騒動、訴人四人無事帰る。

文政十二年 (一八二九) 大飢饉発生!(天保五年も飢饉)

天保八年 (一八三七) 和宮降嫁の行列、中山道を東下。梅村屋で小休止。

文久元年 (一八六一)

慶応元年 (一八六五) 木曾川大洪水!

慶応三年 (一八六七) 新加納・長塚村など被害発生。江戸幕府、十五代將軍 徳川慶喜「大政奉還・王政復古」布告。

(参考文献) 坪内氏資料、歌舞伎勸進帳、那加町史ほか